

題名：先駆的ネットワーカーのネット遍歴 -When old networkers were young-

明治大学情報コミュニケーション学部

江下雅之 ESHITA Masayuki

**【要旨】**

人びとは他者との「つながり」を形成し維持するために、その時点で最適な技術的手段を選択する。21世紀に入り、ブログ、SNS、そして twitter が短期間で普及する事態が生じたが、新しい技術的工具が新しいコミュニケーション形態を必然的に生み出すわけではない。本研究は、20年以上にわたって CMC を実践する先駆的ネットワーカーに注目し、コンピュータ・ネットワーク普及以前から今日に至るまでの「ネットワーク生活」の歩みを聞き取り調査し、さまざまな技術的ブームのなかでの技術的選択の過程と交流形態の変化、ネットワークの普及における役割を分析するものである。

**【キーワード】**

CMC、ネットワーク、情報格差、twitter、マニア

## 1 はじめに

インターネットにおいては、これまでにさまざまなコミュニケーション・ツールが登場してきた。近年では SNS や twitter 等のソーシャル・メディアが急速に利用者を増やしている。その主役は年代的に若い層であり、中高年は最先端のツールから取り残されているかのような印象を与えがちだ。パソコンがオフィスに導入された 1980 年当時は、操作に馴染めない中高年の多くは「弱者」であった。しかし、それから 30 年が経過し、そのころパソコン機器に通じていた若者がいまでは中高年の年代に入った。ネット歴 20 年以上の先駆的ネットワーカーたちは、新しいサービスや機能に積極的な関わりを持ち続けている。このような存在が、新しいサービスを同年代に伝道する役割を担っているのである。

## 2 コミュニケーションを媒介する仕組みの変遷

### 2.1 パソコン通信

パソコン通信は日本では 1980 年代後半に続々と登場した。1983 年の時点でマニアが実験的に運営するホスト局も存在したが、本格的な普及は 1985 年以降である。株式会社アスキーが運営する ASCII Net は 1985 年 5 月に実験運用を開始し、86 年 12 月にサービスを開始した。86 年 4 月には日本電気株式会社が PC-VAN のサービスを、87 年 4 月には株式会社エヌ・アイ・エフが NIFTY-Serve の運営を始め、1988 年には朝日新聞社の ASAHI パソコンネットが始まる。90 年代には個人が運営する草の根 BBS も全国各地で増加している。1993 年初の時点で 947 局の存在が確認されている。

1994～1996 年ごろに最大手の NIFTY-Serve および PC-VAN が会員数を急増させた。草の根 BBS のホスト局数は 1994 年 6 月末時点で約 2,500 に達した。他方、事業者は 1996 年ごろからインターネット接続サービスを重視する。利用者も Web やインターネット・メールに移行し、90 年代末から 2000 年代半ばにかけ、パソコン通信サービスは終焉する。

### 2.2 ウェブ日記

日本では 1994 年にベッコアメやリムネットなど低価格を売り物とするインターネット接続業者がサービスを開始し、個人が自分のパソコンを使って Web サイトを立ち上げる例が急増する。Web 日記の閲覧を楽しむ人も増え、1995 年の時点で津田優が Web 日記のリンク集「日記リンクス」という Web サイトを立ち上げている。90 年代の半ば、インターネット利用者の 25 パーセントがホームページを所有し、そのなかの 9.9 パーセントが日記を設置していたという調査結果がある。

2000 年前後より、レンタル Web 日記サービスがいくつか登場している。利用者は自分でいちいちファイル管理をしなくても、簡単に日記を更新できるようになった。1999 年 6 月にサービスが始まった「さるさる日記」が代表的である。

### 2.3 電子掲示板群

1970 年代、大学に所属していた初期のハッカーたちは、メッセージの転送によって電子掲示板を試行していた。これが newsgroup という巨大な電子掲示板に展開し、日本では 1984 年 9 月に JUNET が誕生したのとほぼ同時に「fj」をトップカテゴリとする newsgroup が立ち上がった。しかし、1990 年代後半に利用者が減少した。

一方、90年代後半から急速に利用者を増やしたのが、不特定多数の利用者がアクセスできる Web 上の巨大な掲示板群である。1998年7月には「Yahoo!掲示板」が、1999年5月には「2ちゃんねる」が、2001年8月には「ふたば☆ちゃんねる」が開設された。また、1997年8月にサービスが始まったレンタル掲示板 Teacup は、ドメイン全体としては膨大な電子掲示板を擁する。

## 2.4 メーリングリスト

電子メールの同報機能を利用した交流がメーリングリストである。majordomo や fml 等の ML 管理ソフトを使うことにより、メンバーの入退会、メッセージの配信等の管理を簡略化できる。majordomo は 1992 年ごろから幅広く利用されており、Web が広がるまでは個人間の交流手段として使われていた。

ほぼおなじ機能を用いたコミュニケーション手段にメールマガジンがある。1997年にはメルマガの配信代行サービス「まぐまぐ」が誕生し、購読者は自分の読みたいメルマガを探ことができ、発行者は膨大な潜在的購読者を得られるようになった。このシステムは有料配信の仕組みがあり、2010年時点でもメディアの一つとして利用され続けている。

## 2.5 ブログ

ブログの仕組み自体は Web の登場とほぼ同時期に存在していたという指摘があるが、本格的な普及は日本では 2002 年ごろからだ。総務省の調査によれば、2005年3月時点で日本国内のブログ利用者は延べ 335 万人と推計されている。人気の高いブログの場合、月間で数十万件以上のアクセスを記録している。

## 2.6 SNS および twitter

SNS の原型は、1990 年代後半に設立された sixdegrees.com 等であるが、本格的な普及は 2003 年の Friendster の登場以降である。日本では 2004 年に GREE および mixi のサービスが始まった。その後、企業単位の従業員向け SNS、地域住民向けの SNS、同窓会組織による SNS 等、様々な形態の SNS が多数登場している。そのような状況のなか、GREE、mixi およびモバゲータウンが 2009 年末時点で登録者数が 1,000 万人を超える。

2009 年には日本で twitter の利用者数が急増した。twitter は 2006 年 7 月にアメリカでサービスが始まり、ミニブログ、マイクロブログと呼ばれることがある。しかし、ユーザー間の社会関係(フォロー)が明示され、Web ページ間にリンクが形成されていることから、SNS の一種と見なすことも可能だ。

## 3 先駆的ネットワーカーの利用歴

### 3.1 ネットワークの流行

前章で示したように、人びとのコミュニケーションを媒介する仕組みは多数登場しており、それぞれに盛衰が存在する。したがって、長年 CMC に関与してきた者であれば、いくつかの仕組みを渡り歩くような状況が多かれ少なかれ生じているであろうし、何らかの使い分けをしている可能性も高い。

従来、どの時期にどの仕組みがネットワークの主役だったのであろうか。1980 年以降の

状況を時系列的にまとめると次のようになる。

#### 1) 1980年代前半

ハード・ソフトに詳しい一部のマニアが実験的に電子掲示板（草の根 BBS）を開設したり、あるいは限られた研究機関でインターネットのメールや **newsgroup** を利用していた。ネットワークの利用者数は限定的であった。

#### 2) 1980年代後半

商用のパソコン通信サービスが続々と登場するが、個人利用はマニアの範囲にとどまった。80年代前半に比べればネットワーク利用者は増加したが、その範囲は限られていた。

#### 3) 1990年代前半

パソコン通信の利用者数が急増し、パソコンのマニア以外にも利用者が広がった。インターネットでも **Web** が登場し、一般個人の一部が試しに利用する例が出てきた。

#### 4) 1990年代後半

パソコン通信利用者は増加を続けるが、その一方で **Web** の利用者が急増し、自身のホームページを開設する人、**Web** 日記を始める者が目立つようになる。**Web** 上の電子掲示板やメーリングリストがパソコン通信のサービスを徐々に代替する。

#### 5) 2000年代前半

ネットワークの中心は完全にインターネットへと移行する。とりわけブログの利用者が急増し、巨大掲示板と並び、コミュニケーションの中心的存在となる。

#### 6) 2000年代後半

機能的にはブログとほぼ同様だが、利用者間のリンク形成に特徴のある **SNS** が利用者数を一気に拡大させた。とりわけ **twitter** 利用者の急増は著しく、人びとの「つながり」を土台とする仕組みが短期間で浸透した。

### 3.2 先駆者の選択

2010年の時点で **CMC** に関わった経験が20年以上ある「先駆者」を対象に、ネットワーク利用の変遷、パソコンや通信機器に関するスキル等について聞き取り調査をおこなった。全員に共通することは、

1) 20年前の時点ですでにコンピュータ（パソコンに限定されない）の習熟度が高く、プログラム言語を用いて必要な機能を自作プログラムで実行できた。

2) アマチュア無線を趣味としていたり、携帯電話を早い段階から保有するなど、通信サービスへの関心が高い。

3) どのようなサービスもとりあえずは使ってみるという姿勢を持っている。

4) 批判されることの多い匿名掲示板に対し、一方的に毛嫌いするのではなく、是々非々のスタンスである。

5) ネットワークによって交流する人の範囲が拡大した経験を持つ。

6) パソコンやネットワークの使い方に関し、周囲にアドバイスを求める機会が多い。

等の6点である。

一方、**CMC** を通じた交流については、大きく二つのパターンに分かれる。

まず、さまざまなサービスを積極的に使い、その都度交流する範囲を拡大させている人

がいる。このようなタイプは、90年代前半まではパソコン通信を通じ、90年代後半以降はメールリストやブログ、SNS等で新たな交流の範囲を開拓している。

逆に、あるサービスを利用する過程で緊密な友人関係を複数形成し、その後は交流拡大を志向しない人たちもいる。このようなタイプは、あるサービスに関しては深く関わり、活発な活動を通じて多くの知己を獲得する一方、しばらくしてネットワークの利用に対するコミットメントが低下している。しかし、完全に「燃え尽きる」わけではなく、緊密な友人たちとはメールやSNS等で活発なコミュニケーションを継続している。

#### 4 結論

利用歴20年以上のネットワークの「先駆者」は、コンピュータや通信に関する関心が強く、技術的なスキルも高い。90年前後の段階からパソコン通信サービスを通じてCMCに馴れ、Webの登場以降もさまざまなサービスを早い段階から試してみるなど、ネットワークにおけるinnovaterあるいはearly adapter的なポジションを占め続けている。また、ネットワークにおいて発生する問題に対しては、自身の経験に基づいて是々非々の姿勢を保っている。周囲にアドバイスをする機会も多いことから、今日においては、新しいサービスや機能を40～50代に「伝道」する役割をある程度は果たしているものと考えられる。

#### 【参考文献】

- 川浦康至/編『現代のエスプリ 391 日記コミュニケーション』（至文堂、2000）
- ばるぼら『教科書には載らないニッポンのインターネットの歴史教科書』（翔泳社、2005）
- 総務省『ブログ・SNSの現状分析及び将来予測』（2005）
- 山下清美・川浦康至・川上善郎・三浦麻子『ウェブログの心理学』（NTT出版、2005）
- アスキー社/編『全国パソコン通信電話帳'93春』（アスキー、1993）
- 江下雅之『ネットワーク社会 -パソコン通信が築くコミュニティ-』（丸善、1994）
- 江下雅之『リンク格差社会』（毎日コミュニケーションズ、2007）
- 江下雅之「SNSにおける日記コミュニケーションの研究」『目白大学文学・言語学研究』第3号、目白大学人文学部、2007年1月、pp.57-70.
- 江下雅之「SNSにおけるネットワークのダイナミズムに関する研究」『明治大学情報コミュニケーション学研究』第6・7号、2009年3月